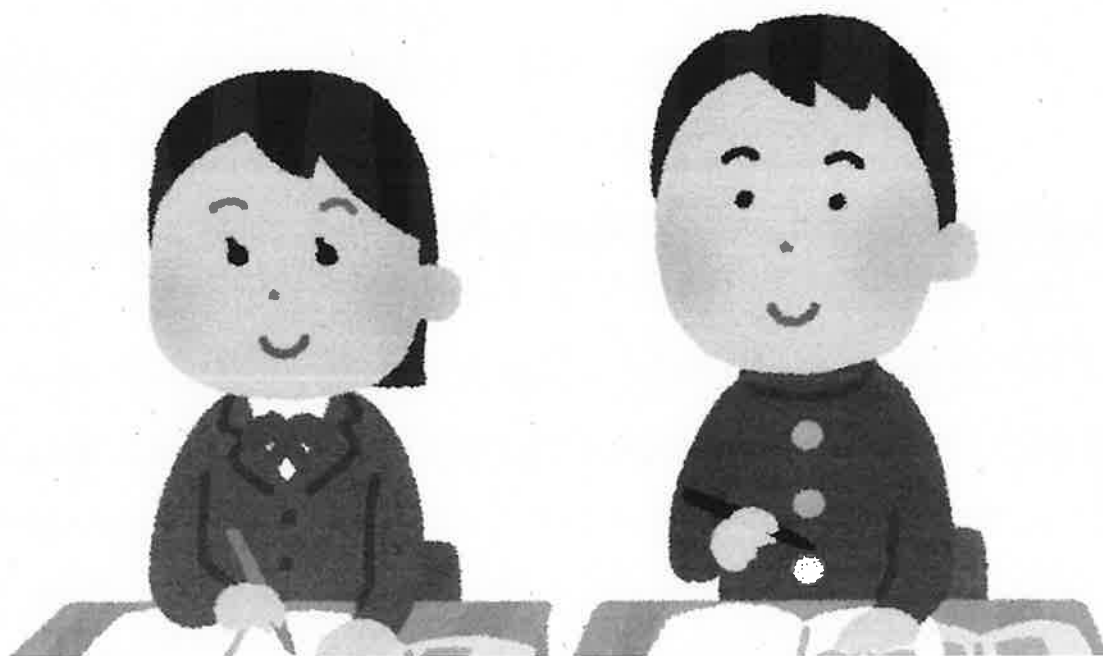


2024年度3年生
学習のとびら



亀山市立中部中学校

新しい時代を生き抜くために、あなたたちには、自分のよさや可能性を認識し、失敗を恐れずに夢や可能性に挑むためのたくさんの力が必要になります。

例えば、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の「確かな学力」、命を大切にする心や他者への思いやり等の「豊かな心」、心身の健康や体力等の「健やかな身体」などです。

中部中学校の3年間の学習を通して、これらの力をつけ、持続可能な社会の実現と未来の自分を想定し、自己実現を目指してどう生きるかを考えてください。そのために、この「学習のとりざら」を使って日々の学習をすすめていきましょう。

学習の心構え

私たちは自分をよりよく育てるために、自分自身の心構えをしっかりと持ちましょう。「学習のポイント10」は、その鍵となるものですから、これらのことに気をつけて生活してみてください。

「学習のポイント10」

①身体の状態を完璧に！

規則正しい睡眠と毎日の朝ごはんを大切に生活しましょう。

「早寝早起き朝ごはん」は、心身の健康や確かな学力につながります。

②計画をたてて進んで学習を！

主体的に計画し、進んで学習する習慣を身につけましょう。

③粘り強く、自らの学習の調整を！

知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることを目指して、自ら学びを調整しながら、粘り強く学びましょう。

④授業を大切に！

「めあて」をもって学び、「ふり返し」を大切にしましょう。

一つひとつの授業に全力を出し、集中して取り組みましょう。



⑤復習と予習を！

その日に学習したことはその日のうちに復習を。予習も必要があればしましょう。

⑥かたよらない学習を！

得意な教科をいっそう伸ばし、不得意な教科は人一倍努力しましょう。

自分にあった学習法を工夫し、みつけだしましょう。

⑦学びを深めよう!

疑問や課題に思ったことは、どんどん自ら調べていきましょう。

「ひと」「もの」「こと」とかかわったり、つながったりしながら、たくさんの対話や協働を通して、学びを深めていきましょう。

⑧図書館の利用を!

読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かせないものです。たくさん読書をしましょう。

⑨体力づくりを!

体力は学習のもとでもあります。困難に打ち勝つ力をつくり上げましょう。

⑩たゆまぬ努力を!

粘り強く取り組み、積み重ねたことは、大きな力となります。

授業への取り組み方

授業では、各教科の基礎的なことがらを順序よく学習します。同じ授業は二度と繰り返されません。かけがえのない貴重な時間なのです。1時間1時間の授業に真剣勝負で臨むことが大切です。授業に真剣に取り組み、意欲的に発表しあう・・・そこから実力がのびてくるのです。さあ、授業に全力で臨みましょう。

1. 前日は ～準備をしっかりと～

忘れ物があつては、授業にしっかりと参加できません。宿題や授業の内容を確認し、必要なものを準備しましょう。

2. 授業中は ～心を集中して～

姿勢を正し、全神経を学習に集中します。「あとで」という考えは危険です。先生の話や友だちの発言・質問をしっかりと聞き、メモをとったり、その場で覚えたりして、問題を解決しましょう。また、作業や実技をともなう教科は、先生の指示をよく聞き、安全に注意して活動しましょう。

3. 発言は ～積極的に～

何を（内容）、何によって（根拠）、どのように（方法）などを考え、わかりやすく話します。聞き手は相手を尊重し、要点をとらえるようにしましょう。

4. 質問は ～ためらわずに～

わかったこと、わからないことを区別することが大切です。疑問を持つことは進歩の証拠です。わからないことをそのままにしておくのは絶対に禁物です。ためらわずに質問しましょう。

5. ノートは ～手ぎわよく～

板書をそのまま写すのではなく、頭の中でよく整理しながらノートをとります。また、いつでもメモをする習慣をつけましょう。よくまちがえる所、わかりにくい所、重要な所には記号やアンダーライン・色分けを使うと、あとで復習する際に役立ちます。

授業は次の5項目を守って、真剣に受けよう

1. チャイムが鳴る前に、教室に入り、授業の準備をしよう。
2. 身のまわりを整頓し、必要な荷物は持ち帰ろう。
3. 「気をつけ、礼」で気持ちを切り換えよう。
4. 授業に集中し、積極的に取り組もう。
5. 教科係からの連絡をよく聞き、忘れ物をしないようにしよう。

中部中学生会

（生徒会が中心になり、よりよい学校生活にしていけるために話し合っただけ決めたものです。）

休憩時間の過ごし方

中学校での休憩時間は、小学校とはちがい、次の授業を受ける準備やからだを休めるためのものです。特に、休憩時間の終わりのチャイムは、次の授業のスタートの合図です。休憩時間内に下記の1～3のことを終え、自分の席に着き、チャイムと同時に授業が始められるように、静かに自習をしましょう。

1. 次の授業の準備をする。

- (1) 次の授業に必要な教科書、ノート、資料集などを出しておきます。
- (2) 特別教室への移動があるときは、(1)ができしだい移動します。
- (3) 体育などで更衣が必要なときは、手早く体操服に着替えて移動します。

2. からだを休める。

- (1) 休憩時間は遊ぶ時間ではありません。頭とからだを休め、気持ちをリフレッシュして次の授業に備えます。
- (2) 必要であれば、トイレに行っておきます。



3. 係としての仕事をする。

- (1) 係は、先生の指示により、授業のための準備をしたり、クラス全員に連絡を伝えます。
- (2) 係は、授業後、または午前中の休憩時間か昼休みの時間を使って、教科の先生に翌日の学習内容などを聞きに行き、帰りの会が始まるまでに、予定黒板に記入しておきます。
- (3) 係は、黒板をきれいに消しておきます。黒板消しもクリーナーできれいにしておきましょう。



宿題について



宿題は授業での学習を家庭で補う必要があるときに与えられます。復習的な内容の宿題もあれば、予習的な内容のものもありますが、いずれも「最低でも、これだけはやっておかないと困る」というものが宿題として出されるのですから、必ずやるようにしましょう。

復習について

人の頭というのは、授業を受けているときには「なるほど」と納得していても、時間がたつにつれて、だんだん「どうしてだったかなあ」と忘れていくものです。復習とは「なるほど」と納得しているうちに確実に頭の中にいれるために行う勉強です。だからこそ、「その日のうちに」やるのが大切なのです。各教科ごとに、くわしい復習のしかたについては、あとに書かれていますが、一般的な心構えは次のようなことです。

1. 学校から帰ったらすぐにやる。

これを必ず習慣にしよう。早ければ早いほど、授業の中身がはっきりと頭に残っていて、勉強時間も短くて済みます。

2. 教科書・ノート中心にする。

授業を思い出しながら、教科書やノートを読み返したり、ノートをもう一度整理したりしましょう。

3. 練習問題で確かめる。

学校で使っているワークブックやプリントなどを活用しましょう。関係ある問題をやってみて、本当に理解できているかどうか確かめましょう。また、余裕があれば、発展的な問題で力だめしをしてみましょう。わからなかったところは、早めに、質問するようにしましょう。



予習について

次の授業の準備、つまり、予習をしてから授業を受けるのと、何もしないままに授業を受けるのでは大きな違いがあります。例えば、予習をしてあれば、自分がわからないことはなにか、ということがわかりますから、それについて、なんとかこの授業でわかるようにしてやろうという意欲がわき、授業に集中できます。また、その授業を受けるうえでの基礎になる、すでに習ったことがらについて、予習で確認してあれば、自信を持って授業に臨むことができます。このように、授業を楽しく受けるためには予習を欠かすことのできないものなのです。予習のしかたについても、一般的なものを次にあげておきます。

1. 教科書に目を通す。次の授業は何をするのか知っておきましょう。

2. 自分で考え、疑問点を出す。

予習するなかで、わからない所や疑問に思った所を見つけておけば、授業のなかで、その疑問を解決してやろうという気持ちになり、より授業に集中できるようになります。また、国語の語句の意味調べや英語の本文を写すなどのちょっとした工夫をすることで、より授業がわかりやすくなるでしょう。



3. 苦手な教科には、特に力を入れる。

予習をきちんとし、自信を持って授業に臨めば、だんだん好きに、やがては得意になるでしょう。

提出物について

宿題、ノート、ワークブックなど、提出しなければならない物は、期限を守って、忘れずに提出しよう。

※ 宿題ではありませんが、各教科で日頃家庭学習として取り組んでほしいことを挙げました。
家庭学習の参考にして下さい。

定期テストについて

年間5回の定期テストを実施しています。みんなの理解を確認するためのテストです。

<テスト期間中の過ごし方>

1. 無理のない計画を立てて、勉強しよう。

時間割や範囲の発表は、テスト実施日の2週間前に行われます。発表されたら、計画を立て、どの教科も同じように勉強する必要があります。「この教科は嫌いだから、後回し。」というのではいけません。逆に、嫌いな教科ほど時間をかけて復習する必要があります。また、無理のない計画を立てるように心がけてください。時間を短かく区切りすぎて、ギュウギュウ詰めにしてしまうのはいけません。少し余裕があるほうがいいでしょう。

2. 目標をもとう。

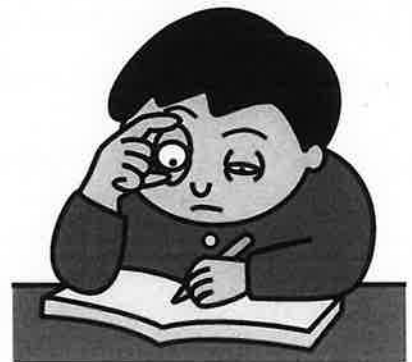
自分に合った目標を立ててみましょう。例えば、「国語は〇〇点……」というように。そうすることで「やる気」が出てくるはずです。

3. 計画を実行に移そう。

テスト期間中は、放課後の部活動が停止されます。これは小学校とは違い、各教科のテスト範囲が広く、十分な復習をしなければならないからです。テスト期間中は、友だちと遊んだりせず、自宅で復習に力を入れましょう。また、計画を実行していく上で、最大の妨げになるのが「スマホ」や「ネット」なのです。テスト期間中は我慢するようにしましょう。

4. 集中して勉強し、睡眠をたっぷりと取ろう。

深夜まで勉強するのか、テスト当日、よく眠そうな顔をして登校してくる生徒を見かけます。夜遅くまで勉強することも、時には大切ですが、テスト期間中は部活動停止なので、帰宅後すぐに勉強に取りかかり、睡眠時間を8時間確保するようにしましょう。テストは、8:50から始まります。夜遅くまで起きていると、大切なテストの時に頭が働きません。



5. 次へつなげよう。

長かったテスト期間が終わり、ほっと一息ですね。しばらくすると、採点されたテストが返されます。返されたテストの点数がよかった、悪かっただけで済ましてはいけません。もう一度間違った箇所を中心にやり直してみましょう。そうすることが実力アップにつながります。くれぐれもやり放して終わらないようにしましょう。

<計画の例>

テスト範囲やテストの時間割は2週間前に発表されます。

		日 程		学習する教科名			予備時間
基礎整理 問題練習	2週間前	計画をこの日までに立てる。		国	英	理	
	...	ここでは、教科名のための計画ですが、各教科の内容も考えて、計画を立てましょう。		数	社	国	
	...			...	...	...	
	5日前			社	国	英	
	4日前			理	数	社	
	3日前			国	英	理	
2日前	土曜、日曜を使って計画の遅れを調整する。学習時間を平日よりも多くとる。			数	社	遅れている教科	
総仕上げ	前日	(テスト前日)		1日目の教科の総仕上げを行う			
	第1日	国	英	理	2日目の教科の総仕上げを行う		
	第2日	数	社	(学)			

1. 「基礎整理」の期間

いきなり、テスト勉強をしようとしても無理です。まず、各教科の基本的な事項を整理しておきましょう。例えば、国語では、漢字や熟語を繰り返し覚えるためのカードを作り、授業中に書いたノートを整理しておきます。また、基本的なことから整理して繰り返し覚えます。つまり、「問題学習」や「総仕上げ」を行うための準備期間です。

2. 「問題練習」の期間

「基礎整理」で覚えた内容を、実際に問題を解いて確認します。問題を解いて、忘れている事項などを、もう一度チェックしておきましょう。

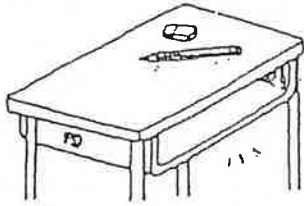
3. 「総仕上げ」の期間

今まで復習したことから、もう一度確認します。だいたい大丈夫ではいけません。自信をもって、テストを受けられるようにしておきましょう。

テストの受け方

次にあげる注意を守り、厳正にテストを受けよう。

机の中には何もいれてはいけません。



筆記用具のほか、不必要なものはすべて、バックにしまいなさい。

先生が問題を配り始めた時から、テストは始まっています。



まわりをキョロキョロしたり、友達と勝手な話をしたりしてはいけません。静かに問題を受け取り、枚数を確認します。

何より先に、組、番号、名前を書こう。



「始め」の合図で答えを書き始めますが、何より先に、組・番号・名前を必ず記入しましょう。それらを書き忘れたら答案は0点かも……

品物の貸し借りは厳禁です。



必要なものを忘れてきても、そのまま受験するのです。あるいは、先生の指示にしたがう。

できる問題から、やり始めよう。



あわててすぐに答えを書き始めず、まず全体の問題に目を通して、できるところから始める。どうしてもわからない時には先に進みます。

見直しもテストのうち。



答えを全部書いてしまっても、よく見直しをして、間違いがないかどうか十分確かめる。この時も声を出したり、キョロキョロしてはいけません。

出席番号順に解答用紙を集める。



テスト終了のチャイムが鳴ったら、すぐエンピツを置き、列の最後の人番号順に、きちんとそろえて集めます。

休み時間は最後のまとめ。



休み時間中もあばれたり、騒いだりせず、まずトイレをすませ、次のテストの準備をして、静かに過ごしましょう。

問題用紙は大切に。



答案が返される時、説明がありますから、きちんと正解を書き、大切に保存しておきましょう。

★こんな時、どうする？

何かを落としたり、必要な道具を出し忘れて、バックから出したい時。



黙って手を挙げ、監督の先生の指示を受ける。

トイレに行きたくなったり、気分が悪くなったら。



黙って手を挙げ、監督の先生にきてもらい許可を得てから静かに席を立つ。

友達の不正行為を見てしまったら。



そんなことはないと思うが、あとでそっと先生に知らせてください。

学習のすすめかた（第3学年 国語科）

☆国語の学習でめざすこと

- 1、社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 2、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- 3、言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識及び技能	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	テスト、書写の筆遣いやバランス、レポートの書き方、話し合い活動・討論、主張の仕方
②思考力・判断力・表現力等	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	テスト、書写の作品、レポートの内容、発表やレポートによる話し合いや討論の内容、作品
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	テスト、書写、レポート、話し合い活動・討論、主張等への取り組み方

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 現代の国語3（三省堂） 中学校書写一・二・三年（光村図書） 副教材 国語のワーク、漢字のワーク、文法のワーク 資料集 資料集	持ち物	教科書、国語ノート 国語のワーク、文法のワーク 漢字のワーク、資料集、 習字道具、国語辞典
学習の進め方	《学校では》 ・50分の授業に集中して取り組み、人の意見をしっかり聞き、自分の意見を進んで発表しよう。 ・復習に使える、創意工夫あるノート作りをしよう。 ・学校図書館を積極的に利用するとともに、朝の読書に落ち着いて取り組もう。 《家庭では》 ・わからない漢字や語句は、こまめに国語辞典や漢和辞典で調べよう。 ・漢字のワークや漢字テストなどを活用し、漢字の読み書きを繰り返し行い、漢字を正しく使えるようにしよう。 ・新しい作品に入るときは、予習として音読をしよう。 ・本や新聞などを積極的に読もう。また、名作や新聞コラムなどを書き写してみよう。 ・ワークやノートを使ってその日の復習をしよう。 ・予定帳にその日の出来事や思ったこと、感じたことをより詳しく具体的に書こう。 《定期テストでは》 ・教科書やノートを見直しワークや漢字のワーク・漢字テストなどを利用して授業の復習をしよう。 ・テスト範囲の漢字の読み書きをしっかりと練習し、楷書で丁寧に書く習慣を身につけよう。 ・提出物があれば、必ず期限内にやって提出しよう。 ・テスト返却後、間違えたところを復習しよう。また、テスト問題は保存しておき、繰り返し復習に使う。		
学習上の注意	・チャイムが鳴るまでに授業の準備を整えて、予習をしながら待つようにする。 ・テストなどで間違えた漢字や分からなかった漢字を正しく書けるようにする。 ・宿題は期限内に終える。特に作文の宿題は早めに終え、推敲する。 ・日常生活の中で、国語に関心を持ち、国語についての知識・技能を高められるようにする。クロスワードなどに親しむのもよい。 ・ノートを復習に使えるように、普段から丁寧に字を書くようにする。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
学 期	4 オリエンテーション 岩が【読む(詩)】	1 描かれた情景を想像しながら読み、内容を理解する。 2 詩にこめられた作者の思いを捉え、自分の意見をもつ。	知・技 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 思・判・表 ①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 主 ・進んで文章に表れているものの見方や考え方を捉え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
	握手【読む(小説)】 読み方を学ぼう①回想	1 小説の構成や場面の展開を捉える。 →読み方を学ぼう①回想 2 登場人物のしぐさに着目して、心情を捉える。 3 過去を回想する語り手の思いを捉え、自分の考えをもつ。 4 小説の構成や場面の展開の効果を評価する。	知・技 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 思・判・表 ①「読むこと」において、文章の種類をふまえて、物語の展開の仕方などを捉えている。 ②「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。 主 ・進んで物語の展開の仕方などを捉え、学習課題にそって批評しようとしている。
	5 言葉発見 辞書の解釈	1 辞書の語釈について理解する。 2 「確かめよう」の課題に取り組む。	知・技 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 主 ・進んで理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	グループディスカッション 合意形成に向けて 話し合いを計画的に進める 【話す・聞く】	1 話し合いを計画的に進行するための方法を理解する。 2 話し合いを計画的に進行するための方法を、グループディスカッションで活用する。 3 話の展開を予測しながら聞き、自分の考えをまとめる。	知・技 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2ア) 思・判・表 ①「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(Aエ) ②「話すこと・聞くこと」において、進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(Aオ) 主 ・積極的に進行の仕方を工夫しながら、学習の見通しをもって議論や討論をしようとしている。
	漢字を身につけよう①	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	知・技 ①第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。 ②理解したり表現したりするために必要な語句の量を増している。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	6 読み方を学ぼう② 批判的な読み	1 文章の構成や論理の展開の仕方を捉える。	知・技 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。

	「批判的に読む」とは【読む】 間の文化【読む（評論）】 課題作文 条件に応じて 説得力のある文章を書く 【書く】 漢字のしくみ 四字熟語 漢字を身につけよう② 俳句の世界/俳句十句 【読む（解説/俳句）】 読み方を学ぼう③省略 コラム 夏井いつきの 赤ペン俳句教室 批評文 観察・分析をとおして 評価する【書く】	2 文章の構成や論理の展開の仕方を評価する。 3 「間」や「和」を観点にして、日本文化についての自分の考えを深める。 →読み方を学ぼう②批判的な読み 1 課題について、自分の考えをまとめる。 2 自分の考えが伝わるように工夫して、課題作文を書く。 3 交流をとおして、推敲する箇所を見つける。 4 交流を生かして推敲する。 1 四字熟語について理解を深める。 2 四字熟語の組み立て方の種類について理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。 1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 1 俳句のきまりや表現の特徴をもとに、俳句についての理解を深める。 →読み方を学ぼう③省略 2 語句に注意して情景や心情を捉え、俳句を読み味わう。 3 表現の工夫や効果をふまえて俳句の魅力を伝え合う。 1 社会生活の中から批評の対象を決める。 2 対象となる物事を観察・分析する。 3 読み手を説得できるように構成を工夫して批評文を書く。 4 論理の展開や表現の仕方について意見を交流する。	思・判・表 ①「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。 ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 主 ・進んで文章の構成や表現の仕方について評価し、学習課題にそって考えをまとめようとしている。 課題に取り組もうとしている。 知・技 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア 思・判・表 ①「書くこと」において、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(Bウ) ②「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(Bエ) 主 ・粘り強く文章全体を整え、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。 知・技 ①第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。 ②理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 主 ・進んで四字熟語について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。 知・技 ①第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。 ②理解したり表現したりするために必要な語句の量を増している。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。 知・技 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 思・判・表 ①「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。 ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 主 ・進んで文章の構成や表現の仕方について評価し、学習課題にそって批評しようとしている。 知・技 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 思・判・表
--	---	---	--

				①「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 ②「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などをふまえ、自分の文章のよい点や改善点を見込んでいる。 主 ・粘り強く自分の文章のよい点や改善点を見だし、学習の見通しをもって批評しようとしている。 知・技 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) 主 ・進んで和語、漢語、外来語などを使い分け、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。 知・技 ①第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。 ②理解したり表現したりするために必要な語句の量を増している。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	言葉発見② 和語・漢語・外来語	1 和語・漢語・外来語の定義、混種語について理解する。 2 語種の違いによる印象の違いについて理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。		
	漢字を身につけよう③	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。		
9	フロン規制の物語 —〈杞憂〉と〈転ばぬ先の杖〉のはざままで【読む(評論)】	1 文章に表れているものの見方や考え方を捉える。 2 異なる立場の説明を読み比べ、筆者のものの見方や考え方を捉える。 読み方を学ぼう④ 具体と抽象 3 文章を批判的に読む。 4 社会と科学の関係について自分の考えを広げる。	知・技 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 思・判・表 ①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 主 ・進んで文章を批判的に読み、学習課題にそって考えをまとめている 知・技 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 主 ・進んで慣用句などについて理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。	
	言葉発見③ 慣用句・ことわざ・故事成語	1 慣用句の意味と用法を理解する。 2 ことわざ・故事成語について意味や由来を理解する。 3 ことわざ・故事成語の表現効果を理解し、語感を磨く。 4 「確かめよう」の課題に取り組む。 5 日本語と英語の慣用表現の違いについて理解を深める。		
	パブリックスピーキング 状況に応じて 話す力を養う	1 社会生活の中から題材を探し、論理の展開などを考えて、話の構成を工夫する。 2 自分の考えが伝わるように、状況に応じて表現を工夫する。	知・技 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 思・判・表 ①「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ②「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。 ③「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。	

	漢字を身につけよう④ 10 和歌の世界 一万葉集・古今和歌集・新古今和歌集【読む(古文)】 おくのほそ道【読む(古文)】 読み方を学ぼう⑤状況・背景 言葉発見④ 言葉の現在・過去・未来 論語【読む(漢文)】 漢文の読み方 訓読の仕方の確認	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。 1 和歌が詠まれた背景を想像しながら、情景や心情を読み取る。 2 和歌の形式や表現の特徴を捉える。 3 和歌の表現の効果について理解し、鑑賞文にまとめる。 1 表現やリズムを意識して、古文を音読する。 2 歴史的背景などに注意して、作者のものの見方や考え方を捉える。 3 優れた表現や文体の特徴に着目しながら、作品を読み深める。 → 読み方を学ぼう⑤ 状況・背景 1 言葉は変化すること、言葉の変化にはパターンがあることを理解する。 2 「確かめよう」の課題に取り組む。 1 漢文の響きやリズムに注意しながら読み、孔子のものの見方や考え方を捉える。 2 「論語」の言葉をきっかけにして、生き方や学び方について自分の考えをもつ。	主・積極的に場の状況に応じて表現を工夫し、学習の見通しもって話そうとしている。 知・技 ①第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。 ②理解したり表現したりするために必要な語句の量を増している。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。 知・技・歴史的背景などに注意して古典を読むことをとおして、その世界に親しんでいる。 思・判・表 ①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 ②「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。 主 ・進んで表現の仕方について評価し、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。 知・技 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことをとおして、その世界に親しんでいる。 思・判・表 ①「読むこと」において、文章の種類をふまえて、物語の展開の仕方などを捉えている。 ②「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。③「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 主 ・進んでものの見方や考え方について考え、学習課題にそって考えたことを伝え合おうとしている。 知・技 ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。 主 ・進んで時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解し、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。 知・技 ①歴史的背景などに注意して古典を読むことをとおして、その世界に親しんでいる。 ②長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 思・判・表 ①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。
--	--	---	--

	表現プラザ 漢字一字で表現すると【書く】	1 日常生活や社会生活の中から題材を決 2 文章を読み合って、お互いの表現のよい点を見つける。	②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 主 ・進んで人間や社会などについて自分の意見を持ち、学習課題にそって文章にまとめようとしている。 知・技 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 思・判・表 ①「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決めている。 ②「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などをふまえ、自分の文章のよい点や改善点を見込んでいる。 主 ・粘り強く集めた材料の客観性や信頼性を確認し、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。 知・技 ①第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。 ②理解したり表現したりするために必要な語句の量を増している。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。 知・技 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使う。 思・判・表 ①「話すこと・聞くこと」において、進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。 ②「読むこと」において、文章の種類をふまえて、論理の展開の仕方などを捉えている。 ③「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている ④「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。 ⑤「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 主 ・積極的に情報と情報との関係に注意して内容を解釈し、学習の見通しをもって話し合い、考えをまとめようとしている。
	漢字を身につけよう⑤	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	
11	複数の情報を関連づけて考えをまとめる【情報】 情報社会を生きる —メディア・リテラシー 【読む（論説）】 広告の読み比べ 【読む（実用文）】	1 資料A「情報社会を生きる」を読む。 2 文章から読み取ったことをもとに、課題について話し合う。 1 資料B「広告の読み比べ」にある二つの広告を読み取る。 2 二つの広告を読み比べて、作り手の意図を読み取る。 1 資料Aと資料Bを関連づける。 2 課題について、自分の考えをまとめる。 1 グループで話し合って、考えを深める。	

	ポスター 情報の信頼性を確かめて 考えを発信する【書く】	1 ポスターで取り上げる題材を決め 2 構成を考えて下書きする。 3 推敲してポスターを書く。 4 交流する。	知・技 ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使う。 思・判・表 ①「書くこと」において、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。 ①「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 ①「書くこと」において、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。 主 ・粘り強く集めた材料の客観性や信頼性を確認し、学習の見通しをもってポスターを書こうとしている。
	文法の窓 文法のまとめ 表現につながる文法	1 「文法の窓」で語句の選択による表現の違いについて考える。 2 「文法のまとめ」「表現につながる文法」について理解を深める。 3 「確認しよう」の課題に取り組む。	知・技 ・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 主 ・進んで話や文章の種類とその特徴について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	漢字を身につけよう⑥	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	知・技 ①第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。 ②理解したり表現したりするために必要な語句の量を増している。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
12 初恋【読む（詩）】 コラム 文語定型詩と口語自由詩		1 詩の形式をふまえて音読し、描かれている思いを捉える。 2 表現の特徴とその効果を捉え、作品を味わう。	知・技 ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。 思・判・表 ①「読むこと」において、文章の種類をふまえて、物語の展開の仕方などを捉えている。 ②「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。 主 ・進んで表現の仕方について評価し、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
言葉発見⑤ 相手や場に配慮した 言葉遣い		1 状況に合わせて言葉や表現を使い分けられていることを理解する。 2 敬語のさまざまなはたらきについて理解する。 3 敬語を使わずに気配りを表す方法について理解する。 4 「確かめよう」の課題に取り組む。	知・技 ・敬語などの相手や場に合った言葉遣いを理解し、適切に使っている。((1) エ) 主 ・進んで単語の類別について理解を深め、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。

故郷【読む(小説)】

- 1 人物の心情と描写との関連や人物設定を捉える。
- 2 登場人物の言動や関係を捉える。
・場面ごとに登場人物の関係の変化をまとめる。
- 3 表現の特徴や工夫を捉え、評価する。
→読み方を学ぼう⑥反復
- 4 作品に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをつくる。

知・技

・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。

思・判・表

- ①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている
- ②「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。
- ③「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。

主

・進んで考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって批評しようとしている。

知・技

・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。

思・判・表

- ①「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。
- ②「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。

主・積極的に話の構成を工夫し、学習の見通しをもって提案しようとしている。

読書活動

ブックトーク【話す・聞く】

- 1 話の構成を工夫してシナリオを考える。
- 2 ブックトークをする。

知・技

- ①第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。
- ②理解したり表現したりするために必要な語句の量を増している。

主

・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。

知・技

・今までに学習した知識・技能を生かして書いている。

思・判・表

(年賀状を書くなかで、書写で学んだ知識・技能の生かし方を考えている。)

主

積極的に(①)書写で学んだ知識・技能を振り返り(③)、今までの学習を生かして(②)年賀状を書こうとしている。

主・さまざまな書面の書き方を確かめ、日常生活に主体的に生かそうとしている。

知・技

日常生活で使われる書面の一般的な書き方と留意点を理解している。

目的や相手に応じて書式を選び、書写の知識・技能を生かして適正に書いている。

漢字を身につけよう⑦

- 1 中学校で学習する漢字を読む。
- 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。

◆書写

年賀状を書こう

- 1 教科書P114「はがきの書き方」ではがきの表の書き方を確かめる
- 2 伝えたい内容にあった筆記用具を選び、書写の知識・技能を生活に生かすという意識をもって、年賀状を書く。

◆書写

入学願書の書き方

- 1 日常生活で使われる書面(入学願書)の一般的な書き方と留意点を理解する。
- 2 目的や相手に応じて書式を選び、書写の知識・技能を生かすという意識をもって、入学願書を書く。

三 学 期	1 「文殊の知恵」の時代 【読む(論説)】	1 筆者の主張を捉え、自分の知識や経験 などと照らし合わせながら内容を理解す る。 2 文章を読んで、これからの社会について 考え、自分の意見をもつ。	知・技 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣 用句や四字熟語などについて理解を深め、語感を磨き語彙 を豊かにしている。 思・判・表 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたり して、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもって いる。
	坊っちゃん 【読む(小説)】	1 言葉の使われ方や人物の描かれ方に注 意して読む。 2 身近な人との関わり方について考 3 作品の特徴を評価する。	主 ・進んで考えを広げたり深めたりし、学習課題にそ って考えたことを文章にまとめようとしている。 知・技 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語 感を磨き語彙を豊かにしている。 思・判・表 ①「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評 価している。 ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたり して、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもって いる。
2	漢字を身につけよう⑧	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	主 ・進んで人間や社会などについて考え、学習課題 にそって批評しようとしている。 知・技 ①第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢 字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されて いる漢字について、文や文章の中で使い慣れている。 ②理解したり表現したりするために必要な語句の量を増してい る。
	名言集 中学校生活を振り返って 【話す・聞く】【書く】 ◆書写(私の好きな言葉)	1 編集方針を立てる。 2 言葉を集める。 3 言葉を選び、構成を決める。 ◆書体や筆記用具、用紙を決めて下書き する。 4 推敲し、清書する。 →資料編「原稿用紙の使い方・推敲の仕 方」 5 交流する。	主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして 課題に取り組もうとしている。 知・技 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めて いる。 思・判・表 ①「話すこと・聞くこと」において、多様な考えを想定しながら材 料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ②「話すこと・聞くこと」において、進行の仕方を工夫したり互 いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて 考えを広げたり深めたりしている。 ③「書くこと」において、表現の仕方を考えたり資料を適切に引 用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章にな るように工夫している。 ④「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっている かなどを確かめて、文章全体を整えている。 主 ・積極的に伝え合う内容を検討し、粘り強く表現 の仕方を考え、学習の見通しをもって名言集を作 ろうとしている。
	歌の言葉 さくら(独唱)		

学習のすすめかた(第3学年 社会 歴史&公民)

☆社会科の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民として資質・能力の基礎を身につける。

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・社会的事象に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	授業観察 小テスト 定期テスト
②思考・判断・表現	・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会的に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	授業観察 振り返り ノート 定期テスト
③主体的に学習に取り組む態度	・社会的事象について理解し、正しい知識を身に付けている。 ・社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を主体的に解決しようとしている。	授業観察 ノート 課題提出 定期テスト

☆学習をすすめるにあたって

使用教材	教科書:「新しい社会 歴史」 教科書:「新しい社会 公民」 副教材:ワーク	持ち物	・教科書 ・ノート
学習の進め方	《学校では》 ・先生の話や説明等をしっかり聞こう。 ・資料(写真、地図、グラフなど)を読み取り、わかることを積極的に発表しよう。 ・課題について考え、意見交換しよう。 ・授業のふりかえりを5行以上でまとめよう。 《家庭では》 ・学校で学んだことを、自分の身近な暮らしと関連付けよう。 ・自主的に復習を行い、ワークにも取り組もう。授業で配布されたプリント等にも取り組もう。 ・世の中の動きや出来事に関心を持とう。(毎日、新聞の一面を読む、ニュースを見るなど) 《定期テストでは》 ・計画を立ててテスト勉強に取り組もう。 ・教科書にある、グラフ・図表等の資料から様々な情報を読み取ろう。 ・課題について多面的・多角的に考察しよう。 ・教科書にある語句を覚えよう。		
学習上の注意	・忘れ物をせず、授業の準備を整え、ベル席を守る。 ・課題をつかみ、解決に向け、自ら考える。自分の考えを述べ、仲間の考えを聴くことで、さらに自分の考えを深める。 ・黒板に書かれた内容はもらさずノートにとる。 ・気づいたことや大切だと思ったことも、ノートに記入する。 ・ふりかえりを5行以上書く。 ・提出物は期限を守る。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一 学 期	4 第6章 二度の世界大戦と 日本	・第一次世界大戦と日本 ・世界恐慌と日本の中国侵略	・第一次世界大戦の概要を原因、経過、結果から理解している。 ・第一次世界大戦の背景を帝国主義の考えを基に説明している。 ・大正デモクラシーを多面的・多角的に考察している。
	5 第7章 現代の日本と世界	・第二次世界大戦と日本 ・戦後日本の発展と国際社会	・世界恐慌からファシズムまでの流れを理解している。 ・日本の軍国主義化の原因や理由について自分の意見を述べている。 ・第二次世界大戦の原因、経過、結果を理解している。 ・戦時下の民衆の生活について理解している。 ・戦争の名の下に行われた行為について関心を持ち、平和を希求する態度を持っている。
	6 第1章 現代社会と私たち	・新たな時代の日本と世界 ・現代社会の特色と私たち ・私たちの生活と文化 ・現代社会の見方や考え方	・高度経済成長や沖縄返還などの国際社会との関わりやの深まり、冷戦終結の世界情勢を理解している。 ・日本が民主的な国家を建設していく過程を多面的・多角的に考察している。 ・現代社会の特色や文化の意義や影響について理解している。 ・社会生活における決まりの意義について身近な生活と関連づけてとらえ、対立と合意、効率と構成の見方や考え方についてまとめたり、発表したりしている。
	7 第2章 個人の尊重と日本国 憲法	・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会	・人間の尊重と基本的人権について、法の意義を理解している。 ・日本国憲法の三大原則について理解している。 ・個人の尊重と法の支配、民主主義に着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義を多面的・多角的に考察している。 ・現代の社会的事実を踏まえ、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
二 学 期	9 第3章 現代の民主政治と 社会	・これからの人権保障 ・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み ・地方政治と私たち	・国や地方公共団体の政治の仕組みについて理解している。 ・多数決の原理や政党の役割、公正な裁判の保障について理解している。 ・選挙や裁判、地方自治に関する活動を通して、自分の意見を持ち、多様な価値観を尊重しながら話し合いをしている。
	10 第4章 私たちの暮らしと経 済	・消費生活と市場経済 ・生産と労働 ・市場経済の仕組みと金融	・民主政治をより良く運営するためにどのような仕組みが必要か、政治にどのように関わっていけばよいか、意欲的に考えている。 ・身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解している。 ・市場経済の基本的な考え方、金融の仕組み、勤労の権利と義務について理解している。
	11		・社会資本の整備、環境保全、社会保障の充実と安定化、消費者の保護についてそれらの意義を理解している。
	12		・財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。 ・現代社会の生活と関連づけて多面的・多角的に考察したり、課題解決に向け、選択判断したり、考察したことを説明したり、議論したりしている。
三 学 期	1 第5章 地域社会と私たち	・財政と国民の福祉 ・これから経済と社会 ・国際社会の仕組み ・さまざまな国際問題 ・これから地域社会と日本	・市場の働きと経済、国民の生活と政府の役割など、現代社会の課題解決に主体的に関わろうとし、自らの学習を振り返りながら調整し、粘り強く取り組んでいる。
	2		・世界平和の実現と人類の福祉の増大の観点から、国家相互の主権の尊重と協調、各国の相互理解と協力の重要性について理解している。
	3		・国際社会の諸課題や解決のための様々な取り組みや日本の国際貢献について理解し、その知識を身につけている。 ・国際社会の諸課題や解決への取り組みについて考察し、過程や結果を適切に表現したり、発表や討論を通して、考えを深めたりしている。 ・国際社会の抱える諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、より良い地球社会を築くための解決策について考えようとする態度が見られる。

学習のすすめかた(第3学年 数学科)

☆数学科の学習でめざすこと

- 数学を身につけること[「基礎・基本」を習得し、「創造性」を養う。]
式の計算や数量関係の法則、図形の性質を理解し、事象を多面的・多角的に見る力や論理的に考える力を養う。
- 数学を役立てること[数学の「よさ」や「はたらし」を実感する。]
学習した内容を用いて、身の回りの事象に対して、役立てる力を養う。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・文字式の計算、平方根の意味、二次方程式、関数$y=ax^2$、図形(円の性質)に関する基本的な用語や性質、公式を理解している。 ・式の計算、平方根を含む計算、二次方程式の解を求めることができる。 ・方程式やグラフ、三平方の定理、相似の性質などを用いて、数学的に表現し、適切に処理することができる。	・ノートや課題 ・計算練習などの演習の様子 ・定期試験、小テスト
②思考・判断・表現	・式の計算、平方根、二次方程式、関数$y=ax^2$、図形の性質などを用い、事象の中から数学的な関係や法則を見つけ、論理的に考察することができる。	・授業の発言内容 ・ノートや課題などの記述等 ・定期試験、小テスト
③主体的に学習に取り組む態度	・式の計算、二次方程式、平方根のよさ、関数$y=ax^2$についての見方、考え方を用いて進んで問題を解決していこうとすることができる。 ・数学的な事象に関心をもって調べることができる。	・学習活動への取り組み状況 ・テストに向けての継続的な取り組み状況 ・ノートや「ふり返し」などの記述内容

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 未来へひろがる数学3(啓林館) 副教材 ワークブック 確認プリント	持ち物	・教科書 ・ノート・ファイル ・ワークブック ・図形セット (直定規・三角定規・コンパス・分度器)
学習の進め方	《学校では》 ①50分(45分)の授業が有意義なものとなるように、積極的な姿勢でのぞもう。 ※教室は間違ってもいいところである意識をもとう。 ②わからないところは先生に聞くことにより、必ず解決しておこう。 ※間違いやわからない問題をそのままにしておかないようにしよう。 ③問題を解けたときの喜びを感じよう。 《家庭では》 ①授業終了後にワークブックの該当箇所を確認し、しっかり復習をしよう。 ※短時間でもよいので、復習することにより定着をはかろう。 ②宿題は必ずしよう(授業時に点検をします)。時間に余裕があれば、次時の予習をしよう。 《定期試験では》 ①2週間前に試験範囲の発表が行われると同時に学習計画を立て、継続的に学習に取り組む習慣を身につけよう。 ②日常からの復習を活かして、試験前には間違えやすい問題等に取り組み、確実性を身につけよう。 また、応用問題にも取り組もう。		
学習上の注意	①授業中の板書を写すと同時にポイントとなることはノートに書き留める。 ②ノートは教科書以上に見やすくする。(色ペン等を利用して) ③間違えた問題は答えだけでなく、途中の思考過程もわかるように書く。 ④「話を聞くととき」と「問題を解いて友人と相談するとき」のけじめをつけて授業にのぞむ。 ⑤提出物(ワークブック、ノート)の提出期限(基準)は守る。 ⑥時間があれば積極的にワークブックや章末問題に取り組む。		

☆年間計画

時 期	単 元 名	おもな学習内容	評 価 観 点
一 学 期	4 オリエンテーション 1章 式の展開と因数分解 1節 式の展開と因数分解	・式の乗法、除法 ・乗法の公式 ・因数分解	・乗法の公式を用いて式の展開をすることができる。 ・因数及び因数分解の意味を理解している。 ・既に学習した乗法の公式と関連づけて、式を因数分解する方法を考察し表現することができる。
	5 2節 式の計算の利用	・式の計算の利用	・式の因数分解の方法を考えようとしている。 ・文字式を使うことの必要性和意味を考えようとしている。
	6 2章 平方根 1節 平方根 2節 根号をふくむ式の計算 3節 平方根の利用	・平方根 ・平方根の値 ・有理数と無理数 ・真の値と近似値 ・根号をふくむ式の乗法、除法 ・根号をふくむ式の計算 ・平方根の利用	・数の平方根の必要性和意味を理解している。 ・平方根の大小関係を不等号を用いて表すことができる。 ・平方根のおよその値を求める方法を考察し表現することができる。 ・平方根を具体的な場面で活用することができる。 ・平方根について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
	7 3章 二次方程式 1節 二次方程式 2節 二次方程式の利用	・二次方程式とその解 ・二次方程式の解の公式 ・二次方程式と因数分解 ・二次方程式の利用	・平方根の意味に基づいて、二次方程式を解くことができる。 ・解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くことができる。 ・因数分解を使って二次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・二次方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
	9 4章 関数 $y=ax^2$ 1節 関数とグラフ	・関数$y=ax^2$ ・関数$y=ax^2$のグラフ	・関数$y=ax^2$の関係を式に表すことができる。 ・関数$y=ax^2$の変化の割合を求めることができる。 ・関数$y=ax^2$のグラフの特徴を、表や式と関連づけて考察し表現することができる。
	10 2節 関数 $y=ax^2$ の値の変化 3節 いろいろな事象と関数	・関数$y=ax^2$の値の増減と変域 ・関数$y=ax^2$の変化の割合 ・関数$y=ax^2$の利用 ・いろいろな関数	・具体的な事象を関数関係として捉えたり、その事象の考察にいかしたりしようとしている。
	11 5章 図形と相似 1節 図形と相似 2節 平行線と線分の比 3節 相似な図形の計量 4節 相似の利用	・相似な図形 ・三角形の相似条件 ・三角形の相似条件と証明 ・平行線と線分の比 ・中点連結定理 ・相似な図形の面積 ・相似な立体の表面積・体積 ・相似の利用	・図形の相似の意味と相似な図形の性質を理解している。 ・三角形の相似条件の意味を理解している。 ・中点連結定理を用いて、図形の性質を証明することができる。 ・相似な立体の相似比と表面積の比、体積の比の関係について考えようとしている。 ・相似な図形の性質について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
二 学 期	12 6章 円の性質 1節 円周角と中心角 2節 円の性質の利用	・円周角と中心角 ・円周角の定理の逆 ・円の性質の利用	・具体的な場面で、円の性質を活用して、問題を解決する方法について理解している。 ・円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用することができる。 ・円周角と中心角の関係について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
	1 7章 三平方の定理 1節 直角三角形の3辺の関係 2節 三平方の定理の利用	・三平方の定理 ・三平方の定理の利用	・三平方の定理、三平方の定理の逆の意味を理解している。 ・三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。 ・三平方の定理について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
	2 8章 標本調査とデータの活用 1節 標本調査	・標本調査 ・母集団と標本の関係 ・データを活用して問題を解決しよう	・標本調査や全数調査の必要性和意味を理解している。 ・母集団と標本を理解している。 ・標本調査の方法や結果を批判的に考察し判断することができる。 ・標本調査について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
三 学 期	3		

学習のすすめかた（第3学年 理科）

☆理科の学習でめざすこと

理科の学習では、生活に必要な知識や実験器具の使い方を覚えながら、科学的なものの見方や考え方を身につけることを目的としています。そして、疑問に感じることを、学級の友人と協力しながら解決していく活動を通して、自然のすばらしさを発見し、自然と人間の関わりについて考えていくこともねらいとしています。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
① 知識・技能	生命の連続性、化学変化とイオン、運動とエネルギー、宇宙を観る、自然と人間に関することからについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・実験観察レポート ・定期テスト、実技テスト、小テスト ・実験の様子
② 思考・判断・表現	生命の連続性、化学変化とイオン、運動とエネルギー、宇宙を観る、自然と人間について観察や実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、特徴や規則性を見だして表現するとともに、探求の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	・実験観察レポートや課題等の記述、発言内容等 ・定期テスト、小テスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	生命の連続性、化学変化とイオン、運動とエネルギー、宇宙を観る、自然と人間に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・学習活動への取り組み状況 ・レポート ・ワークシートやノートの記述内容

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 未来へひろがるサイエンス（啓林館） 副教材 ワーク、プリント、理科便覧	持ち物	教科書 ノート 理科便覧
学習の進め方	《学校では》 ・先生の話や説明をしっかりと聞き、疑問はその場で解決しよう。 ・パソコンやビデオの映像、資料をよく見よう。 ・観察や実験には積極的に参加しよう。 ・自分自身の考えをもとう。（「なぜ」「どうして」と考えよう） ・ノートをきちんとまとめていこう。 《家庭では》 ※ わからない問題は次の日、学校で先生に聞こう。 ・ノートの整理をしておこう。プリントを貼ったり説明を書き込んだりしよう。 ・教科書やノートを読んで復習しよう。 ・習ったところまでワークをやり、繰り返し確認しよう。 《定期テストでは》 ・早めに学習計画を立てよう。 ・観察や実験の結果やまとめの確認をしよう。 ・プリントやワークなどの練習問題の見直しをしよう。		
学習上の注意	・理科室へは休み時間中に移動する。 ・チャイムが鳴るまでに授業の準備を終え、着席して待つ。 ・授業で配られたプリントはノートに貼って、見やすいノートづくりをする。 ・実験・観察（準備から片づけまで）には全員で協力して取り組む。 ・提出物の提出期限を守る。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一 学 期	4 運動とエネルギー 1章 力の合成と分解	・重力と浮力の関係から、浮き沈みの仕組みを理解し、作図によって合力や分力を求めることができる。	①日常生活や社会と関連づけながら、力の合成・分解、力と運動、仕事とエネルギー、エネルギーの変換と保存などについての基本的な概念や原理・法則などを理解している。観察・実験・作図の基本的な技能を身につけている。 ②見通しをもって観察・実験などを行い、その結果から力のつり合い、合成や分解、物体の運動、力学的エネルギーなどについての規則性や関係性を見いだして表現している。 ③運動とエネルギーに関する事物・事象に進んで関わり、科学的に探求しようとしている。
	2章 物体の運動	・記録タイマーなどを使って物体の運動の様子を調べる方法を身につけ、物体にはたらく力と運動の関係を理解する。	
	5 3章 仕事とエネルギー 4章 多様なエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用	・仕事の定義を理解し、仕事の原理を見いだす。エネルギーの定義を知り、物体の高さ、質量、速さと位置エネルギーや運動エネルギーの関係を見いだし、力学的エネルギーの保存について理解する。 ・身のまわりのさまざまなエネルギーの移り変わりを理解するとともに、その総量は一定に保たれることを理解する。 ・人間は多様なエネルギー資源を消費して生活していることを知り、安全で有効な利用と環境保全の重要性を認識する。	
	6 生命の連続性	・生物のふえ方には無性生殖と有性生殖があることを見出し、その違いを理解する。	
	7 1章 生物のふえ方と成長 2章 遺伝の規則性と遺伝子	・観察を通して、生物の成長を細胞の分裂と関連づけてとらえ、有性生殖の減数分裂について理解する。 ・生物がふえるとき、遺伝子を介して親から子へ形質が伝わり、その伝わり方に規則性があることを理解する。	
二 学 期	9 3章 生物の種類の多様性と進化	・現存の多様な生物は長い時間経過の中で変化したことを体のつくりと関連づけて理解し、進化の概念を身につける。	③生命の連続性に関する事物・事象に進んで関わり、科学的に探求しようとしている。 ①化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、イオン、電池、酸・アルカリ、中和などについての基本的な概念や原理・法則などを理解している。観察・実験の基本的な技能を身につけている。 ②見通しをもって観察・実験などを行い、イオンと関連づけてその結果から化学変化における規則性や関係性を見いだし表現している。 ③化学変化とイオンに関する事物・事象に進んで関わり、科学的に探求しようとしている。
	10 化学変化とイオン 1章 水溶液とイオン 2章 電池とイオン	・実験を通して、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることやイオンの存在を見だし、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解する。 ・実験を通して、金属のイオンへのなりやすさに違いがあることを理解し、電池の基本的な仕組みが説明できる。いろいろな電池や燃料電池の仕組みについても理解する。 ・実験を通して、酸・アルカリの性質がそれぞれ水素イオン・水酸化物イオンによることを見だし、中和反応をイオンのモデルを使って説明できる。	
	11 3章 酸・アルカリと塩		
	宇宙を観る 1章 地球から宇宙へ	・太陽の形や大きさ、表面のようす、惑星の特徴や太陽系の構造を理解する。	
	12 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方	・天体の日周運動が地球の自転による相対運動であることを理解する。 ・季節ごとの星座の位置や太陽の南中高度の変化を、地球の公転や地軸の傾きと関連づけて理解する。 ・月や金星の見え方を、月や金星の公転と関連付けて理解し、動きや形を観察・記録する技能を身につける。	
三 学 期	1 自然と人間 1章 自然界のつり合い	・生物を栄養摂取の面から相互に関連付けて捉え、自然界ではつり合いを保って生活していることを見だし理解する。	①自然界のつり合い、自然環境の調査・保全、自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。観察・実験の基本的な技能を身につけている。 ②見通しをもって観察・実験、情報収集や資料調査などを行い、その結果から自然界のつり合い、自然環境の保全と科学技術の発展などについて、化学的に探求している。 ③生物と環境、科学技術の発展、環境保全、自然災害などに関する事物・事象に進んで関わり、科学的に探求しようとしている。
	2 2章 さまざまな物質の利用と人間	・日常生活では、さまざまな物質が用途によって使い分けられていることを知り、有効利用の重要性に気づく。	
	3 3章 科学技術の発展	・さまざまな科学技術の利用が人間の生活を豊かに便利にしていることを認識する。	
	4 4章 人間と環境	・身近な自然環境や自然災害を調べ、人間の活動などの要因が環境に影響を与えていることを理解し、環境保全の重要性を認識する。	
	5 5章 持続可能な社会をめざして	・科学技術の発展や自然と人間生活の関わり方を総合的に捉え、科学的に考察する。	

学習のすすめかた(第3学年 音楽)

◇音楽の学習でめざすこと

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することをめざす。

◇評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
知識・技能	○音楽表現に必要な「音楽の約束」を理解し、それらを活用することができる。 【歌唱】 ・正しい音程、正しいリズムで独唱、斉唱や合唱をすることができる。 【器楽】 ・正しい運指や奏法で、演奏をすることができる。 【創作】 ・正しいリズムでリズム打ちをしたり、正しい和音進行で旋律を作ったりすることができる。 【鑑賞】 ・楽曲を集中して聴き、楽曲の特徴を捉えることができる。 ・作曲者の生い立ちや、活躍した時代背景を考えながら鑑賞することができる。	○技能・鑑賞ワークシート ○ふり返りワークシート ○小テスト・定期テスト ○実技テスト (歌唱・器楽・創作)
思考・判断・表現	○表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、表現することができる。また、それぞれの曲の背景と音楽とを関連づけて、それらを今の自分の生活と結びつけて考えることができる。 【歌唱・器楽】 ・曲想に合った声色や音色で演奏することができる。 ・音楽用語に気をつけ、曲想をつけて歌ったり演奏したりすることができる。 ・歌詞の内容や楽曲の背景などを捉えて、表現することができる。 【鑑賞】 ・楽曲の特徴を捉え、合唱や合奏などの曲においては、他の声部との関わりを感じながら、鑑賞することができる。 【創作】 ・音素材の特徴、構成上の特徴を考察し、音の選択をしながら、創作活動をすることができる。	○技能・鑑賞ワークシート ○ふり返りワークシート ○小テスト・定期テスト ○実技テスト (歌唱・器楽)
主体的に学習に取り組む態度	○音を聴くことや奏でることに興味関心をもち、歌唱や器楽演奏などの音楽表現活動に積極的かつ意欲的に取り組むことができる。 ○学習の目的を理解し、題材における自己目標の設定をしっかりと行うことができる。また、毎時間のふり返りを通して、題材に対する自己課題を見つけることができる。	○技能・鑑賞ワークシート ○ふり返りワークシート ○表現活動の様子(観察)

☆学習を進めるにあたって

使用教材	中学生の音楽2・3下(教育芸術社) 中学生の器楽(教育芸術社) 学習プリント・ワークシート	持ち物	・中学生の音楽2・3 ・中学生の器楽 ・ファイル ・筆記用具
学習の進め方	《学校では》 ①活動の時間を大切にしよう。そのためには授業に必要な準備物をきちんとそろえておこう。定期的に記名を確認し、プリント類を整理しておこう。 ②どの活動にも説明の時間と練習の時間がある。まずは、説明を集中して聞こう。そうすることで、練習がスムーズに進みより良い成果が上げられるので、その時間を大切にしよう。 ③合唱活動は全体の時間の半分以上がパート練習である。 「課題のリズムを体得しよう」「難しい音程の歌唱にチャレンジしよう」など、目標を持って参加しよう。 ④仲間と共に音楽活動を高めよう。互いの力を出し合ったり、苦手なところを補い合ったりしながらクラス全体で合唱を楽しもう。そのために、積極的に活動していこう。 《家庭では》 日々の生活の中に流れている音楽を意識しよう。鳥の鳴き声や川のせせらぎなど、自然のもたらす音にも耳を傾けよう。 学習したことを復習しよう。ひとりひとりの努力の積み重ねが、より良い合唱につながっていくことを忘れずに、復習したことを次の授業に生かしていこう。また、地域の伝統芸能にも興味を示し、それらを伝承していこう。 《定期テストでは》 合唱に関すること、鑑賞に関すること問いますが、あくまでも日々の取り組みが大事であり、歌唱テストも重視しますから、どちらも力を入れて取り組もう。		
学習上の注意	・学習に必要な準備物を、忘れずそろえよう。 ・音楽表現に必要な「音楽のきまり」について日頃から意識して学習しておこう。 ・より良い音楽表現ができるように、身体の柔軟性を高めよう。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一学期	4 混声合唱 「島唄」	・学習規律を確認する ・正しい姿勢を保ち、より良い発声で歌う。	・正しい姿勢を保ち、より良い発声で歌唱表現することができる。 ・正しいリズム、正しい音程で歌うことができる。
	5	・各声部の響きを感じながら、「島唄」に込められたメッセージを伝える合唱活動をする。	【知識・技能】【主体的】 ・楽曲の分析をすることができる。
	6 心の唄 「花」「早春賦」	・日本の情景や、日本人の心情に結び付いた日本歌曲の良さを味わう。	・各声部、それぞれのパートの役割を理解して、合唱することができる。
	7 鑑賞 「ブルタバ」	・標題音楽の特徴をつかみ旋律や速度、強弱、楽器の音色などに注目して鑑賞する。	【思考・判断・表現】 ・楽曲の構成やその曲の背景を知り、それらを理解したうえで、鑑賞することができる。
	校内合唱コンクールの取り組みについて	・自主的に合唱活動ができるよう、意欲を高める。 ・自由曲決定の手立てを学ぶ。	・色々な合唱曲に関心を持ち、積極的にクラス合唱について考えることができる。 【知識】【思考・判断・表現】

二 学 期	9	合唱コンクール に向けた取り組み	・発声練習を行い、より美しい響きを追求する。	・より良い音楽表現をするための発声を積極的に体得しようとしている。 【主体的】 ・正しいリズム、正しい音程を習得し、パートの役割にふさわしい声や歌い方を工夫できる。
	10		・パートリーダーを中心にパート活動を行う。	【知識・技能】 ・歌詞の内容に合った速さや強弱の変化を感じようとしている。
	11		・音楽表現の工夫を行いながら、指揮者・伴奏者を中心に、全体練習を進める。	・それぞれのパートの役割を生かし、ハーモニーの変化や全体の響きに調和させた合唱表現を工夫することができる。
	12	日本の伝統音楽に親しむ 「雅楽」 「能」	・伝統的な日本の音楽に触れ、日本古来の音楽の魅力をを感じる。	【思考・判断・表現】 ・楽曲の背景となる歴史や文化とを結びつけ、総合的に考えて鑑賞することができる。 ・日本の伝統的な文化の魅力に触れそれらを味わうことができる。 【知識】【思考・判断・表現】
三 学 期	1	卒業式歌の取り組み	・3年間の学習の集大成として学年合唱を作り上げる。	・歌詞の内容に合った速さや強弱の変化を感じ取りながら、曲にふさわしい表現方法を工夫している。
	2	「友～旅立ちの時～」	・卒業式で感謝の気持ちを込めて合唱できるように、歌詞の意味をしっかりと把握する。	【知識】【思考・判断・表現】
	3			・卒業への想いをこめて表現しようとしている。 【表現】

学習のすすめかた（第3学年 美術）

☆美術の学習でめざすこと

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
① 知識・技能	・表現するために必要なものの見方や技法、表現の意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を知り、身につけている。	・作品評価 ・授業記録 ・制作過程、観察 ・ワークシート ・定期テスト
② 思考・判断・表現	・自然や身近にあるものを新鮮な見方や感覚で観察し、形や色彩の特徴などから、想像力を働かせてテーマ（主題）について表現することができる。	・作品評価 ・授業記録 ・制作過程、観察 ・ワークシート ・定期テスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	・創造活動の喜びを味わい、楽しく身近なものを見つめ感じ取ったことなどを基に構想を練ったり、意図に応じて表したりする表現の活動に取り組もうとしている。	・作品評価 ・授業記録 ・ワークシート ・制作過程 ・振り返り

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書（光村図書）、 資料集、スケッチブック （彫刻、絵画、デザイン、工芸、各分野の各教材） その他	持ち物	教科書、資料集 スケッチブック 絵の具セット 筆記用具（H、HB、2B、4B） レタリング辞典
学習の進め方	《学校では》 授業の流れ ① 制作に集中できるように、授業に必要な準備物をきちんとそろえておこう。 ② 課題を知り、説明を集中して聞こう。そして、目標をもって制作をしよう。 ③ 整理をして、清掃を含め、後片付けをしよう。 《家庭では》 ① 美術館や博物館などで本物の作品に触れる機会を増やそう。 ② 自然の美しさや人工物の美しさに出会ったら、できればスケッチなどして感動を味わおう。 ③ 授業で作った作品を飾ったり、学習した配色やレタリングを活用したりして身のまわりを楽しいものにしていこう。 《定期テストでは》 ・授業で学習した内容を確認しよう。		
学習上の注意	・学習内容に必要な材料など忘れ物をしないようにする。 ・その日の課題をつかみ、集中して取り組む。 ・今日の制作を振り返り後片付けと清掃をする。 ・完成することをあきらめずに、最後まで完成させる。 ・様々なことに興味や関心を持ち、それらのことを基にして制作に挑戦する意欲を持つ。また、持続させる。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一学期	4 オリエンテーション	・授業の受け方や評価方法について知る。	
	5 絵画(デッサン) 友人を描く	・友人の魅力や人間性をとらえより深い表現を目指す。 ・自分の作品についてふりかえる。	・全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し心豊かに表現する構想を練っている。 ・対象である友人の外見だけではなく内面の表現まで至るような深いものの見方を身に着ける。
	6 鑑賞会 巨匠の肖像画 友人の作品	・巨匠の作品を鑑賞する。 ・友人の作品を鑑賞する。	鑑賞を通して深く味わい、作者の深いものの見方から捉え方、表現から学び作品制作に生かすことができる。
	7 篆刻(印面の制作)	・印面のデザインを考える。 ・印面を転写する。 ・印面の彫刻をする。 ・印面の試し押しをして、完成する。	篆刻の基本的な考え方や制作方法を知り、身に着ける。 中国の様々な書体から学び、様式化された文字を忠実に篆刻することができる。
二学期	9 篆刻(持ち手の制作)彫刻工程	・持ち手のデザインを考える。 ・展開図を書く。 ・石材にデザインを転写する。	・形や材料が感情にもたらす効果や造形的な特徴を全体のイメージで捉えることを理解している。 ・自分の表現にあった道具を選択し、意図に応じた表現方法を追求している。 ・創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。
	10		
	11 鑑賞(工芸作品)	工芸作品の制作を通して、作品の意図や精緻な表現について学ぶ。	・作品の良さや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を広げている。
	12		
三学期	1 篆刻持ち手の磨き工程	・持ち手の彫刻をする。 ・持ち手を耐水ペーパー2000番で磨く。 ・持ち手を日本手ぬぐいで磨き、完成する。	耐水ペーパーの効果的な使い方を身に着け、的確に磨き上げることができる。

学習のすすめかた(第3学年 保健体育)

☆保健体育科の目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに生活を明るく健全にする態度を育てる。
 運動における競争や協同の経験を通して、自ら進んで学んでいく態度や規則を守り、互いに協力して取り組む態度を育てる。
 健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。
 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気づき、体力の向上を図り、運動技能を高め、たくましい心身を育てる。
 健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	運動の特性や発達段階に応じた技能を身につけている。 応急処置などの実習について、基礎的な技能を身につけている。 (実施学年) 運動の特性や技術、ルールなどについて、その知識を身につけている。 保健分野の課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、必要な知識を身につけている。	実技・実習 発表、学習カード 定期テストなど
②思考・判断・表現	運動の特性に応じて、自己や集団の能力に適した課題を見いだすことができる。 練習方法の工夫や作戦の工夫、ゲーム分析など課題に対して自らの考えを持ち、レポートや学習カードなどに表すことができる。 心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考えたり、資料を活用したりすることができる。	発表、学習カードなど
③主体的に学習に取り組む態度	運動や健康・安全についての学習に積極的に取り組もうとしている。 助言や補助などをして仲間の学習や活動を援助したり、公正、協力、責任などの態度を持って活動しようとしている。 話し合いや作戦会議に積極的に参加しようとしている。 施設や道具の取り扱いに配慮し、安全で効率的な活動をしようとしている。	授業への取り組み方や様子 発表や話し合い活動 提出物の状況など

☆学習をすすめるにあたって

使用教材	教科書:「中学保健体育(保健)」 副教材:「中学体育実技(図解実技資料集)」 その他:「学習カード」	持ち物	ジャージ・半そで体操服 ハーフパンツ・体育館シューズ 体育授業用ファイル
学習の進め方	<<学校では>> ○自ら進んで目標に向かって、一生懸命に取り組もう。 ○スポーツのいろいろな楽しさを学習しよう。 ○仲間と協力して活動し、ルールとマナーを守ろう。 <<家庭では>> ○スポーツ観戦をするなどして、スポーツに親しもう。 ○週3回程度を目安として、ランニングやトレーニングを30分程度行おう。 ○規則正しい生活をして、自分の健康管理をしよう。 ○体育実技(図解資料集)など技術面や体力面のポイントが掲載されているので研究しまとめてみよう。 <<定期テストでは>> ○授業で学んだことを基にして、体育実技(図解資料集)や新中学保健体育、学習カードを使って確認しておこう。		
学習上の注意	<授業について> ・チャイムが鳴り終わるまでに活動場所に移動する。 ・各自で必要な部分は念入りにストレッチングをする。 ・授業で使用する用具やコートの準備・片づけは全員で協力して行うようにする。 ・説明をしっかりと聞き、授業の流れやポイントを一人ひとりが把握する。 ・板書を書き込みプリントにまとめたり学習したことを学習カードにまとめたりする。 ・一人ひとりが安全に十分配慮し、服装など心がけるようにする。 ・ケガと体調が優れない場合は、事前に必ず申し出るようにする。		

☆年間計画(3年生)通年男女別で実施のため種目実施時期が前後します。

時期	単 元 名	おもな学習内容	評 価 観 点
一 学 期	4 体づくり運動 (含体力テスト)	○体ほぐしの運動 ○体力を高める運動 ○動きを高める運動	・体力を高める運動を身につけることができる。 ・合理的に体力を高めることができる。 ・新体力テスト
	5 陸上競技(選択) ハードル	○振りあげ足 ○ぬき足 ○インターバルの走り方 ○ハードリングタイム測 定	・正しいハードリングやリズムを身につけ、効率のよいインターバルでの走りをするができる。 ・基本動作、正しい空間姿勢で跳ぶことができる。 ・動作のポイントを身につけ、その技能を高め、競技したり記録を高めたりすることができる。
	6 球技(選択) バレーボール	○ローテーション ○ゲーム	・バレーボールの特性に応じた個人的技能・集団的技能を身につけることができる。 ・作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。
	7		
二 学 期	9 ハンドボール	○シュート ○パスとキャッチ ○ゲーム	・ハンドボールの特性に応じた個人的技能・集団的技能を身につけることができる。 ・作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。
	10 バドミントン	○アンダーハンドストローク ○オーバーヘッドストローク ○ダブルスゲーム	・個人的技能について、正しいフォームで行うことができる。 ・パートナーとの連携プレーによって、ポイントを取ったり作戦を実践したりしてゲームができる。
	11 持久走	○ペース走	・フォームの改善とともに、リズムカルな呼吸方法を行い、長い距離を走ることができる。
	12		
三 学 期	1 サッカー	○フォーメーション ○ゲーム	・サッカーの特性に応じた個人的技能・集団的技能を身につけることができる。 ・作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。
	2 バスケットボール	○マンツーマンディフェンス ○ゾーンディフェンス ○ゲーム	・バスケットボールの特性に応じた個人的技能・集団的技能を身につけることができる。 ・作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。
	3		
通 年	健康な生活と病 気の予防③	○感染症 ○医療機関の利用と 医薬品の使用	・健康の保持増進には、生活習慣が深くかかわっていることやそれがおもな要因となって起こる疾病や予防の仕方について知り、理解することができる。
	体育理論	○文化としてのスポーツ の 意義	・文化としてのスポーツの意義について理解できる。

学習のすすめかた(第3学年技術)

☆技術の学習でめざすこと

- ・情報の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身につける。
- ・情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに、生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・生活や社会で利用されている情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な情報の仕組みを理解している。 ・情報モラルの必要性及び、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。 ・安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身につけている。	・定期テスト ・技能テスト ・作品 ・行動観察
②思考・判断・表現	・生活や社会の中から双方向性のある情報のやりとりに関わる問題を見いだして、必要な機能をもつコンテンツの設計・制作などの課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身につけている。 ・(よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて)情報の技術を評価し、適切な選択と管理・運用、改良、応用する力を身につけている。	・定期テスト ・作品 ・レポート ・行動観察
③主体的に学習に取り組む態度	・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとする。	・定期テスト ・レポート ・行動観察

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 技術家庭科(教育図書) 情報リテラシー(実教出版) PowerPoint(Microsoft) プログラミング学習専用ソフト	持ち物	教科書、ファイル、 情報リテラシー
学習の進め方	《学校では》 ・しっかりと問題意識を持って、授業に取り組むようにしよう。 ・説明などをしっかりと聞き、実習などに真剣に取り組むようにしよう。 《家庭では》 ・パソコンを利用して家庭でも作品を作るようにしよう。 ・問題意識を持って、パソコンなどでネットモラルなどについて調べてみるようにしよう。 《定期テストでは》 ・授業で学習した基礎的なことを確認しよう。		
学習上の注意	・授業への遅刻や忘れものをしないように注意する。 ・先生の指示をよく聞き、自分勝手な行動をしないようにしよう。 ・課題を理解して、意欲的に実習に取り組む。		

☆年間計画

時期	単 元 名	おもな学習内容	評 価 観 点
一 学 期	4 「情報の技術」 情報の基礎的な技術 やセキュリティ等につ いて知ろう	・情報の表現、記録、計算、通 信の特性等の原理・法則 と、情報のデジタル化や処 理の自動化、システム化、 情報のセキュリティなどに 関わる基礎的な技術のしく みを理解する。	・パソコンの構成や名称、働き に関する知識を理解している。
	5 情報を安全に利用しよ う	・情報モラル、著作権・肖像 権について理解する。	・知的財産権・著作権・肖像権に関 することを理解し、適切な行動をと ることができる。
	6		・情報モラルについて理解し、モラルを 身につけている。
	7		
二 学 期	9 情報通信ネットワーク を利用した双方向 性のあるコンテンツの プログラミングを知ろ う	・情報通信ネットワークの構成と、 利用するための基本的な仕組 みを理解する。	・情報通信ネットワークの構成と、情報を利用 するための基本的なしくみを理解して いる。
	10 プログラム制作	・安全・適切なプログラムの制作、 動作の確認及びデバッグ等が できるように技能を身につける。	・安全・適切なプログラムの制作、動作の確 認及びデバッグ等ができる。
	11		
	12		
三 学 期	1 デジタル作品の設 計・制作	・パワーポイントの操作の理解 と卒業制作をする。	・専用ソフト適切に活用して作品を作 ることができる。
	2 パワーポイントを利用 して制作する		・創意工夫を凝らして作品を作 ることができる。
	3 データの管理と活用	・中学校生活で作った電子データ を記録媒体に保存し、活用する。	・ソフトを意欲的に 活用できる。 ・マルチメディアの素材を活かし、情 報を処理することができる。 ・USBメモリに保存する。

学習のすすめかた（第3学年 家庭）

☆家庭の学習でめざすこと

- ・作品を製作したり、体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を得る。
- ・これからの自分の生活を豊かにする力を身につける。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・家族・家庭の基本的な機能について理解を深め生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解している。 ・衣食住・保育に係る技能を身に付けている。	行動観察・発表の様子 作品の完成度 定期試験 実技課題及び試験
②思考・判断・表現	・自身の食生活から課題を見つけ、その解決策を考え、実践を評価、改善し、考察したことをレポートに表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・安全面を考え乳幼児の心身の発達に応じた遊ぶ道具を製作することができる。	行動観察・発表の様子 実技課題・作品 レポート 振り返り記入
③主体的に取り組む態度	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・保育体験にて、積極的に乳幼児と関わることができる。	行動観察・発表の様子 レポート 実践記録の記述 振り返り記入 授業での準備物・提出物

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書：New技術・家庭 家庭分野 （教育図書）	持ち物	教科書 ファイル ハンドノート 実習で必要な生活用品
学習の進め方	《学校では》 ・自分自身の生活や経験を振り返り、課題意識をもって授業にのぞもう。 ・発表等の中から問題点を見つけ出し、皆で解決方法を考えていこう。 ・実習では、計画を立て準備をして、見通しをもって行おう。 ・班で協力することも多いので、よく話し合い、実習中は、安全に気をつけ自分の役割を果たそう。 《家庭では》 ・家庭での仕事を手伝おう。 ・授業の内容を思い出し、家で実際にやってみよう。 《定期テストでは》 ・教科書、ノートを復習し専門的な言葉を覚えたり、その意味や内容を理解しておこう。		
学習上の注意	・身の回りにあるものをよく観察し、新聞、テレビ、インターネットなどから情報を得る。 ・身の回りに起きていることに関心をもって、疑問に思ったことは調べてみたり、記事をスクラップしたり、気づいたことを書き込むようにする。 ・実習においては、目的と方法を理解し工夫して、取り組む。 ・実習においては、ケガをしないように十分注意する。 ・班員で仕事を分担し、能率よく協力して作業をする。		

☆年間計画

時期		単元名	おもな学習内容	評価観点
一 学 期	4	幼児の体の発達を知ろう	・自分の成長を振り返る	・自分の成長を振り返り、幼児との関わり方について主体的に取り組もうとしている。 ・幼児の心身の発達について理解できる。 ・幼児とのよりよいかかわり方について考え、工夫している。 ・幼児の発達と生活の特徴について理解できる。 ・幼児の安全、発達や興味を考えて工夫することができる。
	5	幼児の心の発達を知ろう	・幼児の心身の発達の特徴と個人差を知る	
	6	幼児の生活習慣の身に付け方を知ろう 幼児の生活の特徴を知ろう	・生活習慣を身に付ける過程を知る ・幼児と中学生の過ごし方を比べ交流する	
	7	幼児のおもちゃを作ろう 実習	・保育体験に持参するおもちゃを身近な材料で作る	
二 学 期	9	保育体験事前学習	・保育体験の内容 ・言葉がけ注意点 ・体験の目的と各自の目標設定 ・製作したおもちゃのプレゼン	・幼児とのかかわり方について理解し適切にできる。 ・幼児の心身の発達を考え、幼児とのふれあいやかかわり方の工夫ができる。 ・保育体験で積極的に幼児と関わることができる。 ・保育体験で学習したことをレポートにまとめることができる。 ・幼児の食事とおやつについて理解することができる。 ・売買契約の仕組みについて理解できる。 ・購入方法や支払い方法の特徴について理解できる。
	10	幼児と触れ合おう 保育体験の実施	・クラス別に3時間保育体験	
	11	保育体験の振り返り 幼児の食事とおやつ	・事後学習・レポート・礼状書き ・離乳食と幼児のおやつについて知る	
	12	私たちの消費生活 買い物の法律的な意味を考えよう 販売方法や支払い方法を知ろう	・契約の成立について知る ・取り消し方法を知る ・キャッシュレス決済、クレジットの仕組みを知る	
三 学 期	1	消費者トラブルを防ごう	・消費者トラブルを防ぐ方法を知る ・悪質商法をロールプレイング ・スマートフォンの契約書、取扱説明書で理解を深める	・消費者被害の背景とその対応について理解できる。 ・消費者被害への対応について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・消費者の権利と責任について理解できる。 ・学習したことを活かし消費者トラブルを防ぐ工夫した標語を作成することができる。
	2	消費者を支える仕組みを知ろう 消費者の権利と責任について考えよう	・消費者を守る法律と権利があることを知る ・消費者トラブル撃退標語作り	
	3			

学習のすすめかた(第3学年 英語)

☆英語の学習でめざすこと

- ① 自然な速さで英語を聞き、内容を正しく理解する力を身につける。
- ② 基礎的な内容の英語を読み、内容を正しく理解する力を身につける。
- ③ 身近な事柄や自分の気持ちを、場面に応じて伝える力を身につける。
- ④ 学習した文法事項を適切に使い、自分の伝えたいことが書ける力を身につける。
- ⑤ 英語の学習を通し、様々な国の文化や習慣、考え方を知り、自国の文化の良さを発見する。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
① 知識・技能	・外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションの際に活用できる知識や技能を身に付けている。 ・学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・単語、文法等授業中の課題 ・定期テスト、小テスト ・リスニング、長文読解等課題 ・パフォーマンステスト
② 思考・判断・表現	・具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを適切に伝え合うことができる。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えを話したり書いたりして表現できる。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・定期テスト ・パフォーマンステスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・パフォーマンステスト ・ワーク、ノート、プリント等提出物

☆学習を進めるにあたって

教科書: NEW HORIZON (東京書籍) 副教材: ワーク、プリント、リスニング	持ち物	教科書、ノート、ファイル、ワーク
学習の進め方	《学校では》 ○英語は実技教科です。習った表現をペアワークやグループワークでどんどん使って自分のものにしよう。 《家庭では》 ○毎日の家庭学習が大切です。積極的に「読む」「書く」「聞く」「話す」を繰り返し、英語力を定着させよう。予習・復習を中心にワークや問題集等を使い、英語の家庭学習を日常的に行うように心がけよう。与えられた課題は必ず家でその日のうちに取り組もう。 《定期テストでは》 ○特に試験範囲中の単語や文法事項は、繰り返して読み、何度も書いて確実に覚えておこう。	
学習上の注意	○ペアワークやグループワークのときは、自分から積極的に参加し、協力して学習する。 ○3年生の文法内容と並行して、ウォーミングアップで触れる1、2年生の復習の内容もしっかり学習する。 ○単語力が英語力に大きく影響します。単語学習を徹底する。 ○どのようなときにどのような文法を使うかなど状況に応じて文法を使えるようにする。	

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
1学期	4月 Unit 0 ・学びのコーナー①	・受け身	知 受け身の文や、文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。
	5月 Unit 1 ・Let's Write 1 ・Let's Listen 1	・現在完了形（経験） ・SVOC ・SVOO	思 世界の言語について書かれた文章の情報を読み取っている。
			態 世界の言語について書かれた文章を読み取ろうとしている。
	6月 Unit 2 ・Let's Talk 1 ・Grammar for Communication 1 ・Learning SCIENCE in English ・Let's Listen 2	・現在完了（完了・継続） ・現在完了進行形	知 現在完了（経験）の平叙文や疑問文、SVOC、SVOOの文の形や意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。
			思 これまでの経験や人の気持ちについて、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。
2学期	7月 Unit 3 ・Let's Write 2 ・Grammar for Communication 2 ・学びのコーナー② ・Stage Activity 1 ・Let's Read 1	・It is...to ・want 人など to ・let (help) 人など 動詞の原形	知 現在完了形（完了・継続）や現在完了進行形の文の形や意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。
			思 相手のことを知るために、たずねたり、質問に答えたり、書いたりしている。
	9月 ・Let's Listen 3 Unit 4 ・Let's Talk 2 ・Learning CIVICS in English ・Let's Listen 4	・間接疑問文 ・SVOO ・現在分詞 ・過去分詞	態 相手のことを知るために、たずねたり、質問に答えたり、自分のことを書いたりしようとしている。
			知 It is...to や want 人 to や let(help) 人などの文の形や意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。
	10月 Unit 5 ・Let's Write 3 ・Grammar for Communication 3 ・Stage Activity 2 11月 ・Let's Listen 5	・接触節 ・関係代名詞（主格） ・関係代名詞（目的格）	思 だれかにしてほしいことやひとにしてほしいことなどを伝えるために、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。
			態 人に伝えるために、簡単な文や語句を用いて伝えたり文章を理解したり、自分の考えを話したりしようとしている。
			知 間接疑問文やSVOOや現在・過去分詞の文の形や意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。
			思 人物や体験などについて、情報をたずねあったり、要点を据えたり、具体的に説明したりしている。
			態 人物や体験などを知ってもらうために、その情報を整理して、簡単な語句や文を用いて、たずねたり、答えたり、説明したりしようとしている。
			知 接触節や関係代名詞（who・which・that）の文の形や意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。
			思 どのような人かどのようなものかを伝えるために、要点を据えたり、言葉に情報を加えて説明したり、伝えたりしている。
			態 どのような人かどのようなものかを伝えるために、要点を据えたり、言葉に情報を加えて説明したり、伝えたりしようとしている。

3 学 期	12 月	Unit 6 ・Let's Talk 3 ・Grammar for Communication 4 ・Let's Listen 6 ・Stage Activity 3	・仮定法	知 仮定法の文の形や意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 願いを伝えるために、現実とは異なる願や架空の話について、考えや気持ちを整理して伝えている。 態 願いを伝えるために、現実とは異なる願や架空の話について、考えや気持ちを整理して伝えようとしている。
	1 月	Let's Read 2		知 長所と短所を比較して、文の構造を理解し、エネルギー問題について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。 思 自分にできることや感想などを述べることができるように、さまざまなエネルギー問題について書かれた説明文の概要を捉えている。 態 自分にできることや感想などを述べることができるように、様々なエネルギー問題について書かれた説明文の概要を捉えようとしている。
	2 月 3 月	Let's Read 3 学びのコーナー③		知 メッセージを伝える文章の構成を理解し、メッセージを伝える文章の構成の理解をもとに、生き方について書かれたスピーチの原稿を読み取る技能を身につけている。 思 メッセージの要点を自分の言葉で伝えることができるように、テーマとエピソードを整理し、生き方について書かれたスピーチ原稿の要点を捉えている。 態 メッセージの要点を自分の言葉で伝えることができるように、テーマとエピソードを整理し、生き方について書かれたスピーチ原稿の要点を捉えようとしている。

特別の教科道徳について(第3学年)

◎「道徳」とは、

自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが道徳科の目標です。道徳性とは、内面的な資質で、心情・判断力・実践意欲のことです。

- 自分自身に関すること
- 人との関わりに関すること
- 集団や社会との関わりに関すること
- 生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

に示された価値観を育てます。

道徳で考えることの答えは1つではありません。自分の価値観と周りの価値観が一緒になることが目的ではなく、自分の考えを大切にし、周りの考えを受け入れ、それを踏まえてもう一度自分の価値観をつくっていくことが必要となってきます。

◎具体的には次の方法で道徳性を養います。

自己を見つめる

様々な道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解していきます。自分自身が、人間としてよりよく生きていく上で、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題に気づき、自己や社会の未来に夢や希望が持てるようにすることも大切にします。

物事を広い視野で、さまざまな角度から考える

グローバル化が進んでいるので、様々な文化や価値観を背景とする人達と、ともに尊重しあいながら生きることが必要になっています。また、科学技術の発達などで、社会が変化をする中、様々な状況に対応する力も必要となってきます。これらの背景を踏まえて、人としての生き方や社会の在り方について多面的・多角的に考えていきます。

人間としての生き方についての考えを深める

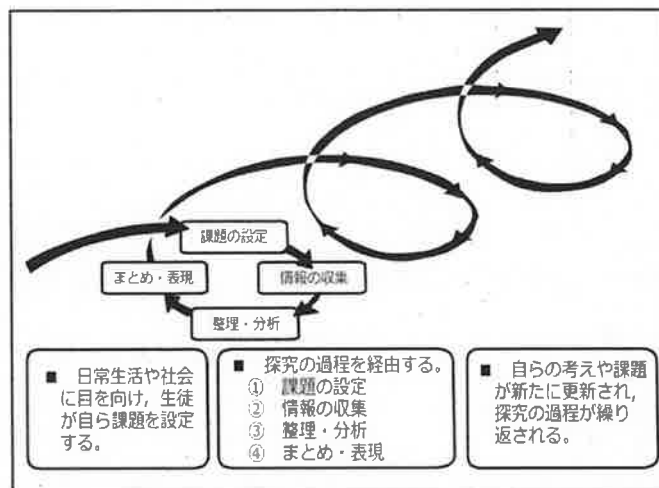
他者や社会、周囲の世界の中で影響を受けつつ、自分を深く見つめ、あるべき自分の姿を描きながら生きていかなければなりません。そのため、自己のことを深く見つめて考えを深めていきます。

総合的な学習の時間について

◎「総合的な学習の時間」とは、

自分たちで課題を見つけ、調べたことや学習したことを発表しながら、自分の考えや思いを伝えていく学習です。自分を見つめ、学習を進めていくことによって、なかまと協力して、社会生活を送っていく力、問題解決の力を養い、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育てていくことをめざしていきます。

探究的な学習における生徒の学習の姿



◎具体的には次のような力を養います。

探究する力 《なかまや自分を見つめようとする力》

課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解したり、目標を達成させる喜びを学んだりします。

表現する力 《自分の思いを伝えようとする力》

実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することを学びます。

行動する力 《課題をみつけ、解決に向け具体的な行動ができる力》

探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う活動を通して、自分の課題をみつけ、その課題の解決に向けて何をしなければならないかを考えて行動につなげ、自分の生き方を考えます。

◎3年間の総合的な学習の時間で大切にしたいこと

★出会いの中で夢を育てること

★さまざまな体験から生き方を考えること

★自ら選択する力を伸ばし夢実現のための進路選択をすること

☆各教科の家庭学習の仕方をご紹介します。

日頃取り組んでほしいことを参考にして、家庭学習に取り組みましょう。

国語科

○日常生活の中で、積極的に活字に触れよう。

書籍(本)・新聞・詩集・雑誌・マンガ・辞典・資料集・写真集・パンフレット等を
読もう。

○自分の好きな本や読みたい本を見つけることにワクワクしよう。

読み取る力 up

- ・教科書の文を音読しよう。
- ・5W1H【いつ・どこで・だれ(何)が・だれ(何)を・どのように・どうした】を
考えて読もう。
- ・場面や段落を考えて読もう。

話す力・聞く力 up

- ・いろいろな人と会話をしよう。
- ・日々の出来事や思ったことや感じたことを文章で表現し、伝えよう。
→友達や家族などと話すとき。
- ・会話の時に、聞いた内容について質問してみよう。

書く力 up

- (すてきな文章から学ぶ。)
- ・名文とされる文章や新聞コラムなどを書き写す。100字程度から増やしていく。
(自分の書きたいことから広げる。)
- ・日記を書く。→日々の出来事や思ったことや感じたことを文章で表現しよう。
1行日記から3行日記と書く量を増やしていく。

語彙力 up

- ・クロスワードパズルをする。
- ・漢字や語句を覚える。何度も言って書いて覚える。
- ・わからない言葉(漢字や語句)は、こまめに国語辞典や漢和辞典で調べる。
- ・覚えた言葉は試しに使ってみる。(短文作り・会話など)

社会科

○学校で学習した範囲の教科書を読む。重要語句に赤ペンでラインを引き、覚える。

○意味がわからない語句は自分で調べる。

○授業中に配布した問題プリント等を繰り返す。

○毎日、新聞の一面を読み、テレビのニュースを見るようにして、世の中の動きや出来事に関心
を持つ。

○テレビを見ていて、知らない地名が出てきたら地図帳で調べる。

数学科

- 宿題をする。
 - 授業で解いた問題や類題をノートにやってみる。
 - ワークなどで、確認をする。
- ※家庭学習で出た悩みや質問は次の日に先生に聞きに行きましょう。

理科

- ワークを使って習ったことを、こまめに復習する(ワークをする曜日を決めると良い)。
- 「教科書の太字の用語を書き出して説明文を書き加える」、「授業内容を自分なりにまとめる」など、工夫してノートをつくる。
- 自然科学についてのテレビ番組を見る(NHKが多いですが、それ以外にも、面白いものがたくさんあります)。
- 特にテスト前には、ワークを何度も繰り返し解く。
- 分からない所は、付箋などをはってチェックし、自分で調べるか先生に質問する。
- 学校でもらうプリントにもしっかり取り組む。答え合わせは、丸付けをする作業ではなく、間違えた問題の解説まで読むところまでする。

音楽科

- いろいろなジャンルの音楽に親しもう
ポップス、ジャズ、クラシックなど、音楽には多くのジャンルがあります。
たくさん聴いて、自分のお気に入りを見つけましょう。
- 音楽に触れる機会をつくろう
音楽に関心を持ち、積極的に演奏会に行ってみましょう。生の音楽鑑賞は、CDやテレビなどとはまた違った良さを味わえることもあります。
- 日常を楽しもう
日常生活は音で溢れています。少し足を止めて心を落ち着かせ、日常の音を楽しむゆとりを持つようにしましょう。

美術科

○身の回りにあるものに関心を持つことから始めよう。(観察しよう。)

身の回りにあるいろいろなものや、出来事に目を向け関心や興味を持ち、見たり、感じたり、体感したりすることから始めよう。(体験すること、経験したこと大切にする。)

○感性を磨くこと。

美しい夕焼けや道端の名もなき花の美しさに心を止めることのできる心のゆとりを持とう。

美しものを美しいと感じられるということを大切にしよう。

○自然・芸術・美術に親しもう。(鑑賞しよう。)

自然・美術・芸術に関心を持ち、美しい花や景色、屋外彫刻や建築に関心を持ち、美術館、博物館、歴史館等へ足を運び、本物の芸術にふれる機会を作ろう。

○メモやスケッチをしよう。(メモ用紙、スケッチ帳を持とう。)記録を残そう。

頭に浮かんだ発想をメモしたり、スケッチに残したり、美しい風景や花をスケッチする習慣を作ろう。

○制作してみよう。

趣味の中に、絵を描いたり、彫刻を作ったり、デザインやイラストを描くことによって、自己表現にチャレンジしていこう。

○調べてみよう。(深める。)

わからないこと、興味を持ったこと、関心のあること、もっと知りたいことについて、とことん調べてみよう。

○根気強く続けよう。

どんなことでも、やり始めたら最後まで完成させよう。「継続は、力なり」です。力をつけるには、何よりも努力を続けていくことです。

身の回りにあるいろいろなものや、出来事に目を向け関心や興味を持ち、見たり、感じたり、体感したりすることから始めよう。(体験すること、経験したこと大切にする。)

保健体育科

○健康に気をつけ、規則正しい生活を送る。

○健康に過ごしていくための基礎体力を身につける。

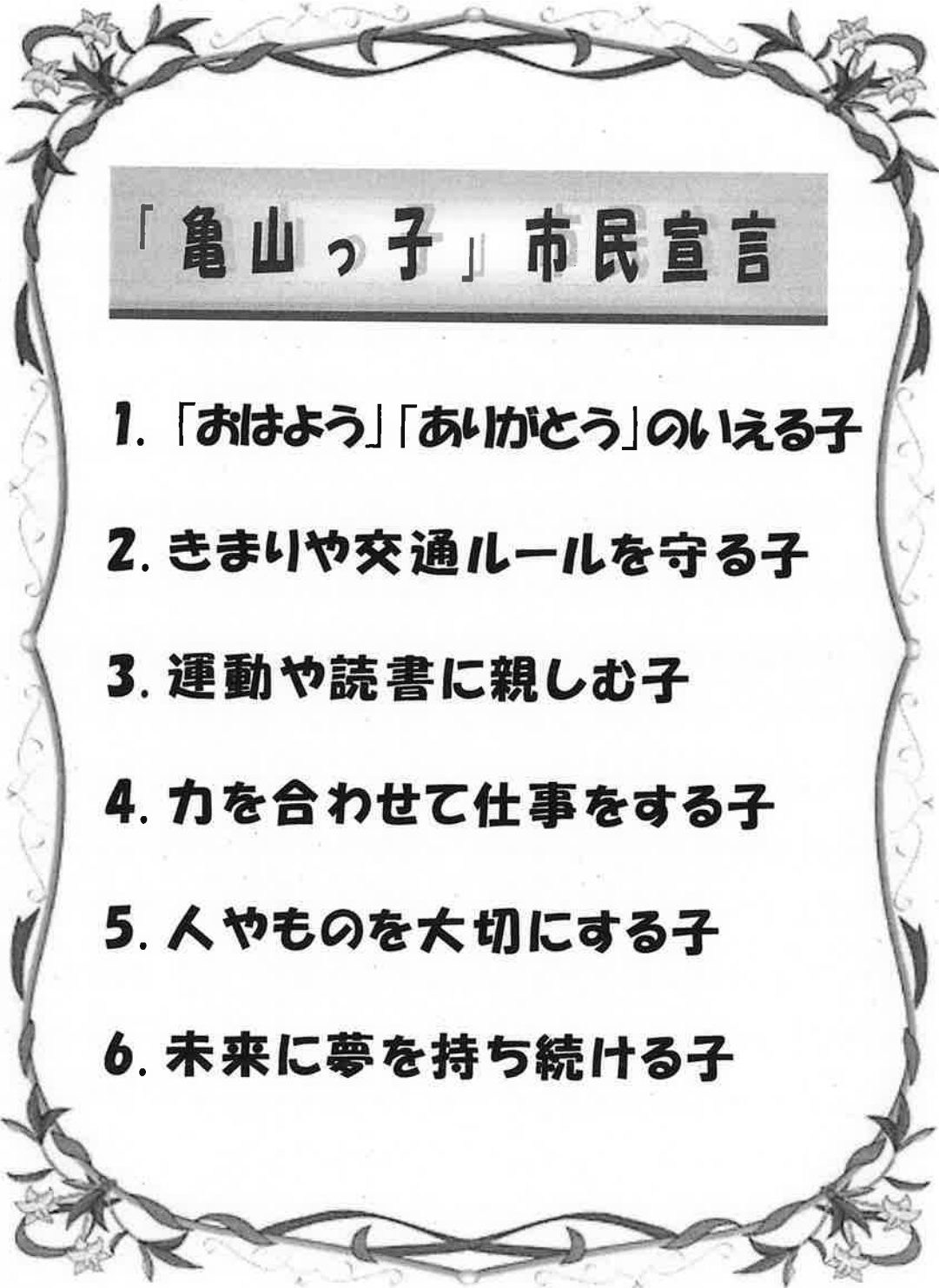
○様々なメディアなどで運動・スポーツに関する情報をたくさん得る。

技術家庭科

- 朝ごはんやお弁当、夕飯作りの手伝い、取れたボタンを付け直す、ほつれたスカートのスソを直す、洗濯してみる。
- 買い物に行ったときなど、様々な表示や新しい商品などに目を向けてみよう。
- パソコンやインターネットを安全に扱い、生活に活かしてみる。望ましい情報社会のために私たちがとるべき態度を身につけ、適切に情報を活用する。
- 木材加工や電気の技能を活かし、修理してものを使うなど、資源や環境を考えて大切に使う習慣を身につける。
- 積極的に地域の人や家族、小さい子どもに関わろう。
- 家庭科は生活の中で即実践できる教科です。まずは、やってみよう。できたら、工夫してみよう
- 世の中の新しい技術や開発された機器などに関心を持とう！
新聞を読んだり、ニュースを見たり、自分たちの生活に関わることを知ろう。

英語科

- 教科書の本文を読む。
→音読することで基本的な文の構造や、リスニング力が身につきます。
- 与えられた課題を家庭で取り組み、提出期限を守る。
- 単語テストや小テスト、定期テストの振り返りをする。間違えたところを繰り返し学習する。
- 単語を正確に覚える。→何度も書いて覚える。
- 音読の仕方(英語を見て読む、日本語を見て英語にして読む)
- 単語を書くときは声に出して単語を何度も書く。



「亀山っ子」市民宣言

- 1. 「おはよう」「ありがとう」のいえる子**
- 2. きまりや交通ルールを守る子**
- 3. 運動や読書に親しむ子**
- 4. 力を合わせて仕事をする子**
- 5. 人やものを大切にする子**
- 6. 未来に夢を持ち続ける子**

亀山市・亀山市教育委員会
亀山市青少年育成市民会議